



茨城県地域臨床 教育センターだより

2019
Vol.30

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 令和元年5月1日発行(第29号)

茨城県唯一の在宅血液透析指導施設としての 取り組み



講師

臼井 俊明

専門領域 ■ 腎臓内科
■ 透析療法
■ 一般内科

当院は、茨城県唯一の在宅血液透析（HHD: Home Hemodialysis）指導施設です。HHDは、名前の通り、自宅で血液透析をしていただく治療方法です。日本では、未だ馴染みの薄い治療法であると思われるので、ご紹介をさせていただきます。

HHDは、新しい治療法ではなく、実は30年以上前からありますが、最近になり有効性が見直されて来ています。平成28年末の透析医学会の集計で、HHDの患者数は、日本全国の透析患者数約32万人の0.19%にあたる635名のみです。

当院は、平成24年11月から茨城県初の在宅血液透析患者のトレーニングを開始し、平成25年12月に当院での第1号のHHD患者様が治療開始しました。その後、年に3～5人のペースでHHD患者数が増加し、現在では17名の患者様が在宅血液透析を実施されており、20例目の患者様が当院透析室で自宅透析トレーニングを行っております。自宅での血液透析回数も延べ数で、400回/月と施設透析（病院へ通院いただいて行う血液透析）比の30%に迫っております。

当院の在宅血液透析患者様の特徴として、1次医療圏の水戸市・笠間市以外の2次医療圏の患者様の割合が多いことがあげられます。ご自宅が当院から車で1時間以内の方を対象に、当院へ通院で在宅血液透析の教育指導トレーニングを実施しています。患者様の住居地の50%が2次医療圏の患者様です。2次医療圏の具体例として、ひたちなか市、つくば市、かすみがうら市、筑西市、鉾田市在住の患者様が、月1回の当院への外来通院をしながら、自宅でのHHDを行っております。

HHDの利点は、1) 患者様のライフスタイルに合わせ、自由な時間・頻度で、自宅で治療を行うことができるため社会復帰が見込めること、2) 十分な透析量を確保することで、腎移植に匹敵する生命予後改善効果が見込めること、3) 食事制限が緩和されて栄養状態の改善が見込めること、などが代表的です。

一方で、HHDのデメリットは、1) 透析用の部屋が必要、2) 改築費の捻出（HHD研究会の報告では平均34万

円）、3) 電気・ガス・集配代金の負担増（2～4万円/月）、4) 機械の構造の理解と操作ができる基礎学力、5) 血管を自己穿刺できる勇気と技術、6) 介助者が必須、7) 下水道の完備といった条件をクリアできる方のみが享受できる医療であることであり、ここが最大の障壁となっています。

前術のように、HHD治療は、どなたでも受けられる治療法ではないという欠点がありますが、透析患者の36.2%を占める65歳以下の勤労世代の透析患者様に高いQOLを保ち、社会貢献を継続していただくことのできる治療法です。

当院でのHHD患者様の透析頻度と時間に関してご説明させていただきます。透析プロダクト（HDP=週の平均透析時間×（週の透析回数）²）が、透析量の指標として一般的に用いられます。生命予後が改善と言われるHDPが72以上の透析量を、当院でHHDを行っている全員が達成されております。腎不全に対する全ての食事制限が不要となり、腎移植レベルの生命予後が期待できるのは、HDPが225以上とされております。当院のHHD患者様のうち5名はこの基準を超えて治療を実施しております。当院のHHD患者様の透析時間と透析頻度を図）に示しします。お示ししているように、当院のHHD患者様は十分量の透析量を確保して治療を行っていることが分かります。

当院での施設透析は現在、満床であり、新規の維持透析受け入れが難しい状況ではあります。一方で、HHDトレーニング用のベッドは、1床から2床へと確保数が増えましたので、年間で最大6人のトレーニングが可能な状態となっております（平均トレーニング期間は約3～4ヶ月になります）。各透析施設でHHD適応のある患者様のご紹介をお待ちしております。

図）：当院のHHD患者様の透析頻度・透析時間、年齢

		1週間の透析回数					女性 男性
		施設透析	在宅血液透析				
透析回数		3回	4回	5回	6回	7回	
1回当たりの平均透析時間	2.0時間						標準時間透析レベル 長時間透析レベル 深夜透析レベル 献体腎移植レベル 生体腎移植レベル
	2.5時間						
	3.0時間						
	3.5時間						
	4.0時間						
	4.5時間			53歳、64歳、65歳			
	5.0時間			48歳			
	5.5時間						
	6.0時間		48歳	79歳	69歳		
	6.5時間			47歳、64歳		58歳	
	7.0時間			52歳	66歳、63歳		
	7.5時間						
	8.0時間		44歳	50歳、63歳		60歳	

第13回筑波大学附属病院 茨城県地域臨床教育センター講演会の報告



准教授

星 拓男

専門領域 ■ 臨床麻酔
■ 手術医学
■ 集中治療

平成31年2月2日に茨城県立中央病院研修棟会議室Aにて「呼吸を診るー呼吸不全のフィジカルアセスメントー」の講演会を開催しました。開始前にAV機器のトラブルが有りヒヤッとさせられましたが無事に解決し、予定時間どおりに開始することが出来ました。演者の神戸百年記念病院の尾崎孝平先生は、尾崎塾の塾長として全国的に有名な呼吸、医療ガス、血液ガスなどのスペシャリストで、そのセミナーには定評があり、Ozacuitなど道具を使った実演もあるため通常は実費がそれなりに掛かりますが、今回はコヴィディエン・ジャパンの協力を得て参加者には無料での受講を実現できました。今回は、呼吸について関心のある医療従事者にとっての力満的講師の講演であったため、院内にはある程度宣伝したものの、院外には広報活動をあまりしなかったにもかかわらず、県内各地の医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士など、院外からの参加者が2/3以上を占めるなど予想外に多くの参加者が集まり

ました。

講演ではビデオ画像を用いた視覚的にもわかりやすい話に加えて、代表者によるゲーム的要素を含む実演、また、Ozacuitを用いて呼吸不全状態を参加者全員に体感させるとともにその状態での視診、触診を二人一組になって行い、背側の胸郭が広がらずに無気肺が出来ていくことや上気道狭窄時に吸息時間の延長が起こること、呼吸回数は増えないことなどを体感するとともに実際に診察で確認し理解するという非常に有意義な時間であった。プレゼンテーションに関しても、ピンマイクを用いて説明しながら、講師の尾崎先生の手元がよく見えるように手元をビデオでスクリーンに映し出すなど、非常にわかりやすいもので、スクリーンを見ながら同じように診察することにより実際に説明通りに変化していく二人一組のパートナーの状態を確認できるというような工夫が随所に見られた素晴らしいものであった。

急遽直前に会場が災害医療センターから研修等へ変更になるなど、こちら側の不手際で受講者には迷惑をかけたが、実習と合わせて90分×2の予定の講演があつという間に終わり、その後の質疑応答でも多くの質問が出ていました。今後今回の講演内容が臨床に生かされるであろうことを期待するとともに、尾崎先生および土曜日もかかわらず参加していただいた先生方に感謝いたしたいと思います。



開催状況



尾崎孝平先生



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学附属病院 茨城県地域臨床教育センター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121
ホームページ <http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/chiiki/cyubyo/>



茨城県